

[資 料]

## 2020 東京オリンピックにおける オリンピック・レガシーの検証のための基礎的研究

東 川 安 雄<sup>1</sup>

### Basic research for verification of the Olympic legacy at the 2020 Tokyo Olympics

Yasuo HIGASHIKAWA

**Key Words** (キーワード) :

2020 Tokyo Olympics (2020 東京オリンピック), Olympic legacy (オリンピック・レガシー)

#### はじめに

2013年9月、ブエノスアイレスで開催された第125次IOC総会において、当時のロゲ会長が「2020 TOKYO」と書かれたカードを掲げながら、2020年のオリンピック開催地が東京に決定したことを発表し、国内が熱狂に包まれたことは記憶に新しい。その後、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、開催が1年延期となり、2021年7月23日から8月8日までの17日間で開催された。また、8月24日からパラリンピックが開催され、9月5日に閉会し、2020東京オリンピック・パラリンピックのすべてが幕を閉じた。

大会のすべてが終了した翌日、橋本聖子大会組織委員会会長(2021)は、「パンデミック(世界的大流行)後、世界で初めてのグローバルイベントである五輪・パラを開催し、しっかりとバトンをつなげたことを誇りに思いたい」と総括した。また、大会が成功したどうかについて問われ「私自身にとっては100%成功だったとは言えない。(評価は)歴史が証明してくれるものと思う」と語った。一方、菅義偉首相(2021)は橋本会長に対して「大成功おめでとうございます」とねぎ

らった。

このような総括や評価が発表される一方、オリンピックに3大会連続で出場した為末大(2021, 9.18)は、「今回の東京五輪とパラリンピックを通じて、日本は『世界から見られる』体験をした。ジェンダー、歴史認識などの文脈は、日本が世界からずれていたことが露呈した。」と厳しい評価を述べている。

ところで、国際オリンピック協会(IOC)は、オリンピック開催を機に、「オリンピック競技大会のよい遺産を、開催国と開催都市に残すこと」をオリンピック憲章に明記している。いわゆる、オリンピック・レガシーである。IOCの「オリンピック・レガシー2013」によると、このオリンピック・レガシーは5つに分類される。すなわち、スポーツレガシー(スポーツ施設の整備、国民のスポーツへの熱気、国民のスポーツ参加と健康)、社会的レガシー(開催都市の世界における位置、教育・文化・民族・歴史認識の向上、市民の大会参加と協力)、環境レガシー(環境都市への再生、新エネルギーの利用、行政の環境政策との融合)、都市レガシー(インフラ整備、都市開発、交通網の整備)、経済的レガシー(経済活動の活発化、雇

<sup>1</sup> 広島文化学園大学人間健康学部 (Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

用の増加、消費活動の増加、観光客の増加)である(川名剛, 2014)。為末が「日本が世界からずれていた」という厳しい評価をした背景には、これらのオリンピック・レガシーを考慮した多様な取り組みに対する大会組織委員会等の関係者の大きな「ずれ」があったことを意味していたのである。

2020東京オリンピックのレガシーについては、佐伯(2015)が、大会が開催される6年前にレガシー戦略を取り上げ、新国立競技場建設問題、開催計画書におけるレガシー約束を分析し、オリンピック競技と市民スポーツの現実との乖離等から、レガシー戦略の失敗を指摘している。また、荒巻(2021)は、立候補ファイルを起点に東京2020計画とそれを巡る議論を振り返り、整理をしている。このように、計画の段階においてはいくつかの検証が行われている。しかし、大会終了後数か月が経過するが、オリンピック・レガシーの観点から大会開催に係る事実の整理及び検証は行われていないのが現状である。確かに、橋本会長が「(評価は)歴史が証明してくれるものと思う」と述べるように、検証には時間が必要かもしれな

い。しかし、その検証を客観的に行うためにも、大会開催に係る事実等の整理は不可欠であると思われる。

以上をふまえて本研究では、2020東京オリンピックのレガシーに係る事柄として何があったのか。その事柄に対してどのような報道がなされたのか。特に、社会的レガシー及び都市レガシーに係る事柄について書きとどめ、資料としてファイルすることをねらいとしたものである。

## 方 法

2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーに係る事柄の事実確認をするための資料は「中国新聞plus日経」を使用し、関係するキーワードを入力して検索して得た。検索期間は、2021年9月15日～10月25日である。

## レガシーに係る事柄と報道内容

### 1. 社会的レガシーに係る内容

#### 1) 五輪エンブレム選定

表1 東京五輪エンブレムに係る事柄と報道内容

掲載年月日	新聞見出し
2015年8月15日	ベルギーのデザイナー側 五輪エンブレムで提訴
2015年9月2日	五輪エンブレム白紙撤回 佐野氏から申し出 類似指摘批判受け 再公募含め選考 五輪の象徴 また汚点 画像流用 追い打ち 組織委「国民の支援ない」 識者談話 呪われたよう／信頼失墜／撤回必要ない 「お粗末」「開催不安」 迷走続き 市民ら失望 ポスター撤去 都、備品が無駄に
2015年9月3日	五輪エンブレム 責任は組織委にもある(社説) エンブレム撤回 海外高い関心 東京五輪「よろめく」 急転直下の撤回 波紋 企業イメージ「悪化」・グッズ中止… 責任の所在問う声噴出 名刺などの備品 継続使用の意向 舛添都知事
2015年9月7日	開催決定2年 新国立競技場・エンブレム白紙撤回 東京五輪 揺らぐ信頼 責任あいまい 立て直し急務

## 2) 東京五輪組織委員会会長によるジェンダー発言

表2 東京五輪組織委員会会長のジェンダー発言に係る事柄と報道内容

掲載年月日	新聞見出し
2021年2月5日	森氏女性蔑視発言（表層深層） 不機嫌釈明 五輪に冷や水 辞任発言強まる可能性 森氏発言 海外から批判 「黙りなさい」「時代遅れの態度」 学会「具体的改善策を」 スポーツ界 厳しい声 森会長発言「影響力自覚を」 発言謝罪 森会長, 反省の色なく 居直り質問遮る
2021年2月6日	森氏の女性蔑視発言 首相ら批判 辞任は求めず 「共同参画と異なる」 森会長発言の波紋（社説） 「五輪の顔」の資格なし ラグビー協の谷口理事 森会長の発言は「的外れている」 失言数々でも「森氏頼み」 各界に影響力「代役いるのか」
2021年2月7日	女性蔑視 「発言する」意味込めて挙手 #黙っていないで 欧州大使館ツイート次々 ボランティアに組織委「おわび」 大坂なおみさん「少し無知」 ラグビー協の稲沢理事 発言「私のこと」と直感
2021年2月8日	共同世論調査 「森会長不適任」59% 森会長蔑視発言 女性厳しい視線 「働く女性の県集会」 女性蔑視発言で森氏辞任求める
2021年2月9日	首相 森氏の発言 国益沿わず 組織委, 臨時会合開催へ 週内にも 森氏発言で対応協議 女性蔑視発言受け為末さん「森会長の処遇を検討を」 ボランティア390人辞退 森会長の女性蔑視発言 辞任要求の高まり 当然だ
2021年2月10日	森氏発言 非難相次ぎ再び声明 IOC「完全に不適切」 五輪相, 発言に苦言 ボランティア辞退「重い」 二階氏「辞めたいなら新たに募集する」 森氏擁護 遠のく沈静化 「スポンサーからも批判殺到」 広島市議会, 蔑視と批判 女性議員5人が森氏辞任を求める
2021年2月11日	森会長批判やまず 五輪組織委 あす会合 五輪相 森氏の責任追及否定 「信頼回復に努める」 共産「日本社会問われる」 森氏辞任「首相主導を」 官房長官「組織委が判断」 鳥取県知事が見解「私なら辞任」 政権・IOC「予防線」と知事も距離 狭まる森氏「包囲網」 「次の一手」 視界不透明 森氏発言波紋なお 都ボランティア辞退126件
2021年2月12日	女子マラソンメダリスト有森裕子さんに聞く 森氏発言で「五輪台無し」
2021年2月13日	森氏釈明「老人が悪いような表現は不愉快」 女性蔑視「解釈の仕方」「意図的な報道あった」
2021年2月19日	橋本新会長 逆風五輪 成功誓う 「ジェンダー平等推進」
2021年2月23日	湯崎知事ら著名な42人 差別撤廃を共同で宣言
2021年2月26日	大会ボランティア千人辞退
2021年3月2日	長崎県 聖火走者に辞退理由提案 「森氏発言に抗議」を「諸般の事情」に
2021年3月23日	五輪組織委 多様性への「東京宣言」 ジェンダー平等 明確に
2021年3月27日	森元首相, 懲りずに蔑視? 「女性というにはあまりにお年」
2021年8月8日	IOC ジェンダー平等 報道表現に指針

## 3) 東京五輪式典担当者辞任

表3 東京五輪式典担当者辞任に係る事柄と報道内容

掲載年月日	新聞見出し
2021年3月19日	五輪式典統括が辞任 佐々木氏侮辱演出を謝罪
2021年3月20日	五輪・パラ式典演出の佐々木宏氏辞任 ルッキズム「許されない」 識者「価値観の更新を」
2021年7月20日	五輪楽曲 小山田さん辞任 いじめ問題 開会式使用せず 謝罪後も批判やまず いじめ問題 小山田さん辞任 組織委、当初は続投模索
2021年7月21日	五輪開会式 楽曲変更急ぐ 小山田氏辞任で組織委 絵本作家 出演を辞退 五輪行事 個々のいじめで批判 (社説) 開会式の作曲担当辞任 五輪理念 なぜ分からぬ 開幕直前 楽曲担当が辞任 理念欠いた「商業五輪」 鈍い組織委 反発拡大 不祥事が続出 SNSで拡散

## 2. 都市レガシーに係る内容

## 1) 東京五輪と復興五輪

表4 東京五輪のレガシーである「復興五輪」に係る事柄と報道内容

掲載年月日	新聞見出し
2011年7月27日	東京の「復興五輪」構想(社説) 理念めぐる議論十分か
2011年9月25日	「復興に役立つ」6割 被災地も前向き
2013年9月8日	都市機能・財政力に支持 「安心」東京圧倒的強さ 熱戦の舞台被災地も 宮城でサッカーや聖火リレー計画
2013年9月10日	汚染水解決を国際公約 首相実現に重い責任担う
2013年10月26日	五輪のある風景【7】 福島のみならず 期待の一方 忘却を懸念
2014年3月11日	東京五輪 東日本大震災3年 復興を後押し、重荷か 東北で一部競技や合宿 人材・ 資材東京に集中も 国際公約の汚染水対策 コントロールに悪戦苦闘
2014年8月12日	五輪の胎動 20年東京へ⑤ 被災地 冷ややかな目 圧倒的
2014年9月29日	地方創生で経済成長 首相所信表明へ 女性の活躍推進 安倍晋三首相の所信表明演説ポ イント ●2020年東京五輪を「復興五輪」に
2015年4月2日	参院予算委 論戦のポイント 【東京五輪】 東日本大震災の復興五輪として・・・
2015年8月11日	参院予算委 論戦のポイント 【東京五輪】 被災地の声を十分に聞き、復興五輪となるよ うに・・・
2015年11月28日	東京五輪 五輪政府基本ポイント 東日本大震災の震災地での聖火リレーなどで復興を世 界に発信
2016年8月9日	1000キロリレーゴール 震災復興支援 東京五輪PR
2016年8月12日	小池都知事方針 復興五輪を掲げ被災地積極訪問
2016年9月3日	野球とソフト 福島で開催へ 東京五輪1次L
2016年9月21日	野球・ソフト会場 福島市開催検討
2016年9月29日	小池都知事所信表明 五輪で「復興発信」
2016年10月13日	村井知事 小池氏へ要望 五輪会場問題 「宮城を代替地に」
2016年10月22日	東京五輪IOCが構想 他球技も被災地開催
2016年11月10日	東京五輪組織委 開催案了承 福島で野球・ソフト

2016年11月25日	五輪ボート長沼案断念へ「復興の象徴」頓挫「政治に巻き込まれた」誘致の宮城側 恨み節も
2017年5月7日	東京五輪組織委 慰霊の日 議論呼ぶか 聖火リレー 3.11開始案
2018年1月23日	安倍首相の施政方針演説 五輪・パラリンピックでは、福島産のクリーナ水素を使って、「復興五輪」を世界に向けて発信してまいります。
2018年6月20日	地方と五輪レガシー古今東西第3部最前線編⑦ 震災復興 被災地に招き感謝・交流
2018年7月13日	東京五輪「復興」を前面に 聖火リレー 出発は福島
2018年8月1日	20年東京 野村さん「鎮魂と再生」 復興五輪 和の精神重視
2018年9月2日	バッハ会長明かす 3.11採火式IOC了承
2018年10月27日	閣僚に聞く 渡辺博道復興相 五輪までに岩手、宮城、福島3県が復興し、世界中にその姿を知ってもらうことが大切だ。福島で製造した水素を、五輪会場や聖火トーチの燃料などに使えないかも検討したい。
2018年11月25日	首相・IOC会長 福島の球場視察「復興五輪」アピール
2019年1月1日	東日本大震災地で使用 聖火トーチに仮設住宅資材 20年東京「復興五輪」の象徴に
2019年3月13日	東京五輪「復興」色鮮明に 聖火出発地Jヴィレッジ
2019年4月12日	五輪相更迭 首相の任命責任は重い(社説) 自民党の同僚議員を東日本大震災の「復興以上に大事」と発言し、桜田義孝五輪相が辞任に追い込まれた。
2019年4月18日	桜田五輪相辞任 政権自体が「復興」軽視(核心評論)
2019年5月25日	東京五輪 復興象徴 聖火リレーに 奇跡の一本松や熊本城
2019年5月29日	東京五輪 復興をアピール 福島第一原発立地町に聖火
2019年7月18日	五輪組織委が復興記念碑
2019年9月26日	閣僚に聞く 橋本聖子五輪相 復興の姿 明確に発信
2019年12月17日	聖火の未来第3部復興五輪の行方① 「掛け声だけ」募る疑念
2019年12月18日	東京五輪聖火リレー詳細ルート発表 福島から「なでしこ」3月26日出発 聖火の未来第3部復興五輪の行方② 命名の経緯「記憶ない」
2019年12月19日	聖火の未来第3部復興五輪の行方③ 国内外で意義使い分け
2019年12月22日	聖火の未来第3部復興五輪の行方④ 「被災地の工事遅れた」
2020年1月3日	復興五輪 被災地は 開催への期待温度差 原発遠い「コントロール」
2020年1月25日	トーチの燃料に水素 五輪聖火リレー、史上初 福島産を活用
2020年2月29日	五輪通じ復興 期待せず85% 公営住宅被災者100人調査
2020年3月10日	被災地は今 プレハブ仮設に700人 復興五輪 冷めた声も
2020年3月12日	「復興五輪」に違和感も
2020年3月24日	開幕まで4ヶ月聖火到着 復興五輪の火 コロナ逆風下 催し縮小 被災地落胆
2021年1月26日	復興五輪 懐疑的64% 東北3県調査「潤うのは東京」
2021年3月10日	東日本大震災あす10年 仙台で被災 卓球の張本「忘れない」いつも胸に 復興五輪発信したい
2021年3月26日	聖火 福島出発 五輪象徴 復興は道半ば 希望の聖火へ 無言のエール 戻れぬ町 複雑な思いも
2021年7月11日	五輪6都道県に拡大 北海道・福島も無観客 福島も一転無観客 コロナ禍 かすむ「復興五輪」「被災地の今」発信かなわず落胆
2021年7月14日	東京都無観客受け 被災地生徒招待を中止 福島のNPO事務局長斎藤さん 復興五輪 期待は諦めへ
2021年8月5日	復興五輪 報道乏しく 海外メディア 取材制限も影響

## 2) 新国立競技場計画

表5 新国立競技場計画に係る事柄と報道内容

掲載年月日	新聞見出し
2013年3月26日	新国立競技場デザイン最優秀賞 ハデイド氏「本当に光栄」
2013年10月24日	東京五輪 新競技場最大3000億円 参院予算委で担当相が試算「縮小を検討」
2013年11月8日	榎文彦氏ら要望書 新国立競技場 規模縮小を
2015年2月21日	新国立競技場計画の修正措置へ
2015年4月25日	日本学術会議が見直し提言公表 「新国立」建設 自然に配慮を
2015年5月19日	文科相建設計画見直しへ 新国立競技場 開閉式屋根は五輪後
2015年5月21日	JFA小倉氏 新国立競技場「計画通りに」
2015年5月31日	建築家ら提言 新国立のアーチ「やめるべきだ」
2015年6月6日	計画変更で信用低下懸念 (JOC会長) 新国立 建築家榎氏ら代替案 巨大アーチ中止求める
2015年6月10日	IOC会長早期決着を要望 新競技場問題に懸念
2015年6月12日	新国立建設計画見直し反対確認 (日本サッカー協会)
2015年6月23日	見直し案「耳傾ける」(下村文科相)
2015年6月25日	新国立アーチ維持 整備費2520億円 900億円増額 巨大アーチ建設 リスク 巨額の財源確保焦点
2015年6月30日	新国立整備費 桁違い高額 追加必至 命名権財源も不透明
2015年7月2日	五輪までの完成で再提言 20年五輪でIOC調整委 新国立の進展評価
2015年7月8日	新国立2520億円了承 アーチ整備765億円増 10月着工 建築界「誰も喜ばぬ」 スポーツ界安堵感広がる 批判の中見切り発車
2015年7月9日	五輪シンボルの迷走(上) インパクト優先の代償
2015年7月10日	新国立は「亡国の事業」 五輪シンボルの迷走(中) 巨額の総工費疑問の声
2015年7月11日	下村文科相が方針 新国立デザイン選考の経緯検証 五輪シンボルの迷走(下) 財源確保のめど立たず
2015年7月15日	与野党批判 新国立工費「高過ぎ」 五輪相、計画維持強調 湧き上がる反対論 スポーツ界/大会のイメージ悪化 与党/国民に説明つかない
2015年7月16日	政府 新国立計画見直しへ デザイン変更も検討 デザインの審査委員長 安藤氏きょう会見 新国立見直しへ 課題なお多く 五輪間に合わぬ恐れも
2015年7月17日	首相 新国立見直し表明 費用縮減へ月内に具体案 新国立 安藤氏が会見 コスト増の責任否定 新国立に混乱拍車 首相が見直し言及/安藤氏「現行案を」
2015年7月18日	首相表明 新国立の計画白紙 コスト上限設定 秋以降に新デザイン 計画迷走に抗議殺到 JSC・文科省「責任は免れぬ」 逆風 折れた「ドン」 改築主導の森氏 強い思い入れ 巨大アーチ構造 森氏「嫌だった」 新国立の計画白紙 巨額費用 国民そっぽ 首相、追い込まれ決断 政府 国際コンペやり直し デザイン撤回 違約金はなし IOC副会長 開催影響ない スポーツ界 理解と苦言「国の事情」「条件守って」 為末さんら 再検討歓迎

2015年7月19日	新国立 課題山積の出直し 時間余裕なし 工費の財源は 責任体制不透明 ハデイド氏 12年ロンドンでも費用増 IOC会長「デザイン重要でない」
2015年7月20日	新国立白紙の経緯検証へ IOC新国立白紙撤回容認 公約よりも経費削減 過去大会の失敗で危機感
2015年7月22日	文科省主導見直し 新国立の着工来年1,2月
2015年7月23日	新国立計画白紙に森氏 責任問う声「迷惑」
2015年7月26日	文科省検証へ「新国立」白紙 責任論が焦点 野党は下村氏追及 新国立整備計画 五輪相「9月に」
2015年7月27日	新国立計画 総工費膨張のドタバタ 招致優先 安易な選定 文科省、問題を1年放置
2015年7月28日	IOC, きょうから会議 新国立見直し報告へ
2015年7月29日	文科省 計画白紙で事実上更迭 新国立担当局長が辞職 政府方針 新国立開閉会式屋根見送り
2015年7月30日	政府指針 新国立来月意見公募へ 世論の反発回避狙う IOC理事会 新国立見直し了承
2015年8月1日	新国立 工費有識者に諮らず 計画当初の1300億円想定 新国立, 電動式可動席見送り
2015年8月2日	政府 有識者審査委新設へ 計画のコストなど検証 IOC, 新国立完成へ注視 バッハ会長「関与すべき」
2015年8月5日	第三者検証委 為末氏ら6人 7日に初会合 新国立 1ヵ月前に見直し進言 下村氏辞任重ねて否定

## おわりに

本研究は、2020東京オリンピックの社会的レガシー及び都市レガシーに係る事柄について書きとどめ、資料としてファイルすることをねらいとしたものである。一つ一つの事柄について検証するには至らなかった。詳細な検証は今後の課題としたい。最近、札幌市が冬季五輪を招致することを発表した。札幌市は1972年にも冬季五輪を開催したが、開催後に「環境レガシー」及び「都市レガシー」に係る環境破壊の問題が指摘された大会である。同様の問題は、長野冬季五輪でも生じた。このような「負のレガシー」を残さないためにも、大会開催において発生した事柄を客観的に検証し、あるべき姿に導いていくことがオリンピック・レガシーにつながるものと考えられる。

## 引用及び参考文献

- 1) 「橋本会長『誇りに思う』」, 中国新聞2021年9月7日朝刊.
- 2) 川名剛 (2014) オリンピック・レガシーの概念-21世紀のオリンピック開催の長期的効果を考える. 大和総研レポート, 2014年1月30日.
- 3) 佐伯年詩雄 (2015) 2020東京オリンピック競技会-レガシー戦略の虚像と実像-. スポーツ社会学研究, 23(2): 25-44.
- 4) 荒牧亜衣 (2021) 東京2020大会レガシー計画を振り返る. 現代スポーツ評論, 44: 64-74.
- 5) 大島裕史 (2021) レガシー作りという名の聖地の破壊. スポーツアドバンテージ・ブックレット, 8: 85-93.